

令和2年度 日本電子専門学校 第二回学校関係者評価 中間報告会報告書

評価対象期間 自：令和2年4月 1日
至：令和2年9月30日

令和2年11月

学校関係者評価委員会

目 次

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2. 学校関係者評価委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
3. 学校関係者評価委員会の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
4. 令和2年度中間報告の実施と評価の仕方・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

II 学校関係者評価報告書の見方・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

III 学校関係者評価委員会 評価結果報告書

総評・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

令和2年度前期の取組（中間報告）に対する評価と意見

○教育重点項目

1. 新型コロナウイルス感染症禍対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
2. 教育重点項目 前期実績報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

○総合評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

IV 学校関係者評価委員会議事録・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

1. 全体会自由意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
2. 分野別分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

議事録

- ① 情報分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
- ② ネットワーク・セキュリティ分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
- ③ ビジネス分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
- ④ 電気分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
- ⑤ 電子分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
- ⑥ ゲーム分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
- ⑦ アニメ分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
- ⑧ デザイン分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
- ⑨ CG・映像分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
- ⑩ モバイル・AI 分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

V 付属添付資料 自己評価報告書（説明資料）

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、日本語教育機関、保護者・地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

令和2年度における学校関係者評価委員会を以下のように年2回の開催とする。

添付：自己点検評価（中間報告）

- ①第1回目(9月)に実施する委員会は、令和元年度（前年度）の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
- ②第2回目（11月）に実施する委員会は、令和2年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。また、令和2年度に定めた、重点的に取組むことが必要な目標・計画を発表する。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、日本語教育機関、保護者、地域住民、在学生に委嘱した。

属性	氏名	所属	役職
企業	杉本 武史	株式会社ぴえろ	人事総務部 リーダー
	石本 則子	株式会社スタジオフェイク	代表取締役
	井沢 祐	株式会社スタジオフェイク	研究開発部 ディレクター
	木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	取締役副社長
	舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン	社長室長
	新 和也	オートデスク株式会社	メディア&エンターテインメント テリトリースマネージャー
	渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	代表
	佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	代表取締役
	伊藤 好宏	日本サード・パーティ株式会社	技官
職能団体	篠原 たかこ	CG-ARTS (公益財団法人画像情報教育振興協会)	教育事業部 事業部長
	満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構	理事
	森 まり子	東京商工会議所 新宿支部	事務局長
	原 洋一	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会	理事・事務局長
	米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	研修委員会 副委員長
高校教員 等	勝間田 清一	日本大学生物資源科学部	非常勤講師
	松下 秀房	目白研心中学校・高等学校	理事 校長
	清水 潤一	株式会社ウィザス	教育運営部 教務 ICT 推進室 室長代行

日本語学校	会田 由紀子	東京ギャラクシー日本語学校	教務部 副部長
卒業生	谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	プロジェクトマネージャー
	中山 秀昭	日本電子専門学校同窓会	副会長
保護者	本郷 幸子		
	厚川 万里子		
	竹中 伸江		
地域住民	小澤 博太郎	百人町西町会	会長
在校生	大久保 匠真	コンピュータグラフィックス研究科	3年生
	阿部 一恵	コンピュータグラフィックス科	2年生
	新井 大成	ゲーム制作科	2年生
	松井 双綺	高度情報処理科	2年生

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

1) 令和2年度第二回学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時：令和2年11月30日（月） 13:30 から 16:30

場所：日本電子専門学校 本館地下1階 1B11 教室

2) 学校関係者評価委員会実施方法

今回は、新型コロナウイルス感染症の拡大を鑑み、密を避けるために、対面で行うことを避け、オンライン会議システム（Zoom）を利用し実施した。

3) 学校関係者評価委員会 進行

(1) 事務連絡（スケジュール、事前配布資料確認） 13:30～

(2) 校長挨拶

(3) 出席者紹介（日本電子教職員、評価委員）

(4) 評価方法説明

(5) 議長（委員長）選出

(6) 学校関係者評価委員会開始 13:50～

<令和2年度 教育重点項目 前期実績報告>

1. 新型コロナウイルス感染症禍対応

2. 教育重点項目に関する中間報告

1) 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」

2) EM・IRによる組織的學生指導体制の充実

3) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

4) クリエイター教育の重点項目

5) エンジニア教育の重点項目

・・・ 評価結果の判定（評価シート記入） ・・・

(7) 全体自由意見 15:00～

(8) 分科会 15:30～16:30

企業、団体の委員においては、以下の分野別に分科会を行った。

① 情報分野分科会

② ネットワーク・セキュリティ分野分科会

③ ビジネス分野分科会

④ 電気分野分科会

⑤ 電子分野分科会

⑥ ゲーム分野分科会

⑦ アニメ分野分科会

⑧ デザイン分野分科会

⑨ CG・映像分野分科会

⑩ モバイル・AI 分野分科会

4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

1) 自己点検中間報告の実施

日本電子専門学校は、第2回学校関係者評価委員会の実施に先立ち、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、令和2年度中間（4/1～9/30）の自己点検を実施した。自己点検項目は、令和2年度における「教育重点項目」2項目であった。

2) 中間報告の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、項目ごとに前期の取り組みが「十分」または、「不十分」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 評価記入シート」のコメント欄に記載した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。

学校関係者評価 中間報告評価記入シート 例

教育重点項目

重点項目1 職業実践専門課程への対応

評価結果

⊕十分

不十分

コメント欄

3) 分野別分科会の実施

学校関係者委員会の一環として、学科の教育内容や運営に対する意見を聴取することを目的として、分野別分科会を実施した。分野別分科会には、企業、団体の委員が参加し、日本電子専門学校からは、教育部署長ならびに学科長が参加した。

分野別分科会で意見を聴取し、今後の学校運営に反映させるとともに、教育課程に関する意見は、教育課程編成委員会に申し送ることとした。

分野の別は、以下の通りである。

- ① 情報分野分科会
- ② ネットワーク・セキュリティ分野分科会
- ③ ビジネス分野分科会
- ④ 電気分野分科会
- ⑤ 電子分野分科会
- ⑥ ゲーム分野分科会

- ⑦ アニメ分野分科会
- ⑧ デザイン分野分科会
- ⑨ CG・映像分野分科会
- ⑩ モバイル・AI 分野分科会

Ⅱ 学校関係者評価報告書の見方

1. 自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 21 名が記述した評価記入シートより、評価基準の「十分」記入数、「不十分」記入数を集計しパーセント表示した。

2. 委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が直接記入したコメントを項目毎にまとめた。

3. 分科会の意見

分野別分科会で意見交換された内容や、具体的な学科に対する意見・改善提案を議事録「学校関係者評価委員会分野別分科会」にまとめた。

Ⅲ 学校関係者評価委員会 評価結果報告

総 評

本委員会は、日本電子専門学校学校の学校運営に関する自己評価の結果について、学校関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性、透明性を高め、理解促進、連携協力によって学校運営の改善に役立てていただくことを目的としています。

第二回目（11月）に実施する委員会は、「令和2年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う」ことになっており、この規定に従い、日本電子専門学校令和2年度前期中間報告会を令和2年11月30日に実施しました。

今回の学校関係者評価委員会については、新型コロナウイルスの感染の危険性がある密集を防ぐため、委員会開催方法を変更し、オンラインでの開催となり、2つの「教育重点項目」について、その中間報告が校長より行われました。

評価については、評価委員の委嘱を受けた、関係する企業、業界団体、卒業生、保護者、地域住民、高等学校教員等（大学、日本語学校含む）、在学生の参加委員21名が、それぞれの立場から、学校担当者からの報告に基づき、項目ごとにその取り組みが「十分」であったか「不十分」であったかを判断し、コメントを記載し、評価結果は以下の通りです。

＜教育重点項目に関する中間報告＞

1. 新型コロナウイルス感染症禍対応（十分：20、不十分：0、無回答：1）
2. 令和2年度 教育重点項目（十分：21、不十分：0）

この評価結果は、日本電子専門学校の取り組みが委員に認められた証であり、多くの委員がコメントにもそのように記述しています。

また、前回から委員の関心が高かったコロナ禍での学校運営や、オンラインを活用した授業方法などの報告を受けて、学生の安全を図りながらの教育の質保証を検討し、実施していることが良い評価に繋がったと言えます。

今後も、学校の課題を解決するために、評価委員の意見を反映して頂くとともに、日本電子専門学校及び専門学校全体の教育の質を高めるような取り組みを継続し、実施して頂くことをお願い致します。

我々評価委員は、引続き協力することをお約束し、学校関係者評価委員会評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
委員長 舟山 大器

教育重点項目

重点項目1 新型コロナウイルス感染症禍対応

評価結果	十分：20 95.2%	不十分：0 無回答：1
------	----------------	----------------

コメント欄

- ① 具体的な対策を充分取られていると感じました。プラスアルファとして、コロナ禍に伴い、メンタル面の不調を訴える学生へのケアといった点についても聞いてみたかったです。(杉本) →十分
- ② 日々緊急対応の続く中、各種対応がバランスよく実施され大変見事な経営手腕でした。私が担当しているゲーム分野も日本の専門学校では筆頭に上がるほどの対応をされており、日本電子専門学校の底力を改めて感じました。特に様々な制約や懸念のある中、学生の心の支えとなる日専祭を実施したご決断は素晴らしいです。
就活支援は学生の努力だけでは何とも出来ない部分が大きく、相当大変かと思えます。キャリアセンターのみなさまのお力で一人でも多くの学生に道が拓かれますよう、祈っております。(石本) →十分
- ③ コロナ禍で大変な状況であることを推察致します。そんな中でもしっかりと対応され、かつ防ぐのみではなく、対応すべきことも対応されていて素晴らしいと思いました。特に、授業開始が遅れたことによる2カ月間の遅れを既に2週間まで取り戻している点につきましては、先生方の努力はもちろんのこと、学生の意識も高くないと成し得ないことだと思います。あたためて、御校の質の高さを感じました。(井沢) →十分
- ④ さまざまな取り組みを実践されていて、特に大きな問題はないように感じました。おそらく大変な苦労をされていらっしゃると思いますので「十分」とさせていただきます。この対策に対する学生の意見が気になるところです。(木下) →十分
- ⑤ 国や東京都の要請への対応に始まり、一般的なコロナ対策はもちろんのこと経済的な支援、学事日程の変更、オンライン授業の運用など、考えられることは行っており対応は十分にできていると考えられる。コロナ禍の対応お疲れ様でした。(舟山) →十分
- ⑥ 前期の段階でオンラインの体制が整えられたのは非常に良かったと思います。遅れも2週間ということで、おそらく問題無くカバーまで行けるんじゃないかと思えます。後は就職関連に関しては、コロナの影響で良い会社と悪い会社に分かれているので、その辺の情報を得て、新規開拓するのが良いと思います。(新) →十分
- ⑦ 各種行事をオンラインへの開催に迅速に変更し、中止という形(スポーツフェスティバルを除き)をとっていない点が素晴らしいと思います。授業開始が、前期2か月、後期2週間と遅れていることについて、授業内容が希薄となり学習進捗や理解不足などが心配されますが、夏季休暇を授業運用にあてる対応がされてい

るので、遅れはあるもののできる限り最大限日数確保されているのではないでしょう。オンライン用 PC、ポケット wifi 貸与等、オンライン授業用の環境整備も行き届き、このまま生徒の学習に支障ない現状を維持していただきたいです。

(佐々木) →十分

- ⑧ コロナ禍の非常に大変な中、様々なことを想定し、対策を打たれていることが理解でき、十分であると考えます。(伊藤) →十分
- ⑨ 早期より取り組まれており、危機管理にたいする意識の高さを感じます。(篠原) →十分
- ⑩ コロナ禍が社会を大きく変えてしまった感があります。対面で授業を行っていた学校運営は大変だったと予想しています。そんな中、オンライン対応・支援金給付等素晴らしい対応だったと思います。先生方のご苦労をお察し致します。何かお力になれることがありましたら、何なりとお気軽にお声掛けください。(満岡) →十分
- ⑪ 1、2 か月間の授業料対応はどうか？(世の中では返金という話があるが)
2、授業の遅れやネット環境など生徒への不平等感はないか
3、オンライン授業の精度、他コロナ対策、先生／生徒の感染状況確認方法等
4、生徒の精神的ケア体制、外国人への対応についてはどうだったのか
(原) →十分
- ⑫ 一般的な対策が抜け漏れなく備えられていたことから「十分」と判断しました。(米井) →十分
- ⑬ 国や都のガイドラインをもとにした可能な限りの対応だと思います。(松下) →十分
- ⑭ 世の中的に未曾有の事態の中で、全国的にも同様の対応が取られていると思うが、御校においても十分細かく丁寧に対応されていると感じられた。(清水) →十分
- ⑮ 行事は例年通りできなかつたものの、就職のサポート(就職説明会)はきちんと実施し例年やっていなかつた就職指導のイベントも追加で行っているということなので充分対応されていると感じました。就職はオンライン化しているということなので例年とは違った面接対策が必要になってくるのかもしれませんが。おそらく就職指導の一環として、オンライン面接対策もやっぺらっしゃることと思います。(会田) →十分
- ⑯ 教育の質を落とさないよう、対応可能な範囲はすべて対応しているように感じました。(谷) →十分
- ⑰ 学内のポスター掲示から始まり、現在出来ることのすべてが行われていると思われます。特に学費の支援については、学生の勉学意欲をすこしでも高めることになると思います。(小澤) →十分
- ⑱ コロナの対応について、予防などの対策はしっかりと行っていると思います。(厚川) →十分
- ⑲ 毎週火曜日に通っているのですが、消毒液が切れることもなく、教室に除菌シートが常備されているのでとてもありがたいです。入口近くに設置された体温センサーは体温計で計った体温と全く違った結果になるので私だけかもしれませんが

どうなのかなと思います。(大久保) →十分

- ⑳ オンライン授業の実施・消毒液の配置・サーマルカメラの設置など、十分なコロナ対策ができていた。(松井) →十分

重点項目2 教育重点項目 前期実績報告

評価結果	十分：21 100.0%	不十分：0
------	-----------------	-------

コメント欄

- ① 以前より懸案となっておりました「ポリシー策定プロジェクト」について、学校として強く推進していく姿勢が伝わる報告へ進化しており、とてもよかったです。「教員の行動指針」について、内容は素晴らしいのですが表記順を見直してもよいように感じます。各社のクレドなどをご参考になさってはいかがでしょうか。また、各先生のご報告の中ではエンジニア教育の大川先生のご説明・報告が大変明快で分かりやすかったです。(石本) →十分
- ② ・学生アンケート内の「資格取得」項目が全国平均にくらべやや低かったこと、資格については以前から課題に挙がっていたものと記憶しています。この点が改善されると素晴らしいなと感じました。
・クリエイター分野の就職率低下について、学生のスキルアップについては、オンラインだと厳しい面もあると感じています。この部分の工夫も、就職率回復のポイントの一つになるかもしれないと感じました。
・校長先生との意見交換については、興味深い試みだと思いました。(井沢) →十分
- ③ こちらにおいても、アンケートの結果を拝見する限り、実施されている諸施策については満足度が高く十分、と言えるのではないかと思います。全国標準よりレベルが高いところの詳細(具体策)が不明ですが、これを教育内容にFBして欲しいと願います。
また、アンケート結果が低い部分の底上げを引き続き実施し、結果に対する対応については次回を期待したいところです。(木下) →十分
- ④ ポリシー策定プロジェクトでは3つのポリシーを各学科の入試から卒業判定まで反映させ最初の目標に到達と順調に進んでいる。同時に基本理念プロジェクトでは自己診断をはじめ事実にもとづく教員行動の効果的なアプローチをしていることが理解できた。また、EM・IR分科会を通じドロップアウト防止への新たな対策を講じていることアンケートを上手に活用していることも分かった。さらに、クリエイター教育ではコロナの影響で就職内定の早期化は厳しい状況であったものの、後期に向けての対策を講じている点が素晴らしい。エンジニア教育についてもコロナの影響で教員のスキルアップは厳しかったようだが、新技術への取組みや、学科運用業務の平準化、世代交代の促進など前向きな姿勢が良く分かった。(舟山) →十分
- ⑤ 生徒さんのアンケートの結果で、ほとんどが昨年を上回っていたので、きちんと対策したことの結果が出ていて素晴らしいと思います。同じ指標で毎年上がって

いければ、3年後、5年後はもっと良い学校になると思うので、引き続き取り組みを続けていただければと思います。(新) →十分

- ⑥ テクニカルチーフ増強はいい取り組みだと感じました。
情報処理試験の代替を具体化できなかと考えました。知識の証明方法(渡邊) →十分
- ⑦ 就職内定の早期化が一概に良いとは言いきれませんが、コロナ禍により、自宅に在ながらのオンライン面談により企業へのアクセスもしやすくなってきています。働き方も変わりつつあり、リモートワークが増えたことにより、ダブルワークや副業を認める企業も増えております。コロナ禍の影響により内定獲得者数は減少していますが、企業だけではなく、生徒からも企業への積極的な働きかけによる柔軟な就職活動において、ピンチからチャンスへ大きく変えることができると考え、企業はその様な人材を求めています。後期に向けての多様な就職機会の提供も期待しつつ、広い視野で複眼的に考えることができる生徒の育成が結果的に就職率に結び付くと考えます。(佐々木) →十分
- ⑧ 学校の一時的なものではなく、アンケート実施及び、校長先生との意見交換を行い、学生に歩み寄ろうという姿勢は、素晴らしいと思います。
学校自治会の運用により、活発な活動も評価ポイントであると考えます。エンジニア教育については、オンライン授業を受講して頂き、受講者(学生の立場)として体験することで、レベルアップも図れると思われるので、積極的に利用して頂ければと思います。(伊藤) →十分
- ⑨ 学習の遅れを取り戻すべく取り組む姿に学生のことを第一に考える姿勢が伺えました。就活の遅れは残念ですが、あきらめずに通年採用の会社などもターゲットに視野を広げて取り組んでいただければ幸いです。(篠原) →十分
- ⑩ オンライン化により、生徒の主体的な取り組みが学習効果に差が出てくると感じました。就職後もオンラインを取り入れている企業が多いため、リモートで自分の業務遂行が出来るかを見る上では有効な状況かと思えます。継続的なオンライン授業対応を期待しております。(満岡) →十分
- ⑪ 総合的に良い学校というアンケート結果もあり、この新型コロナ禍の中対応を良くされたと思います。(原) →十分
- ⑫ 制約の多い中で先生方が努力されたと判断できましたので「十分」と判断しました。(米井) →十分
- ⑬ 前例のない短い授業期間で、教育活動が制限される中、それぞれの重点項目の完全達成は現実的ではないので、目標の変更も考えられたらいいのでは？(松下) →十分
- ⑭ 教育の質向上に向けての具体的な取り組みがなされていると感じた。
その上で卒業生や新入生など、実際に通われている方々の声を集約の上、細かく分析もされた上での検討がなされていた。(清水) →十分
- ⑮ ポリシーが令和2年度末に完成するということがでしたが、副校長先生が作成後、どう生かしていくかが大切だとおっしゃっていたのが印象的でした。教員の行動指針も、教員の方々が日々の授業(仕事)を見直すいい機会だと思います。半年

に1度という頻度もちょうどいいと感じました。(会田) →十分

- ⑯ 数値化して評価する手法が素晴らしいと思いました。また、学科別で評価すると顕在化していない課題や良い点が見つかるのではないのでしょうか。(谷) →十分
- ⑰ 「建学の精神」をベースにして、ポリシーの充実を基本的な方針とした教育により、卒業生アンケートに結果が少しずつでている。(小澤) →十分
- ⑱ 就職活動についてはとても厳しい状況だと思います。学校からの企業情報も重要なので、学生全員が就職できるように引き続きよろしくお願い致します。(厚川) →十分
- ⑲ 特に意見等はありませんが、学科の先生が就職活動に関して相談に親身に乘っていただける環境はとてもありがたいと思います。(大久保) →十分
- ⑳ アンケート結果に基づき判断され十分かつ適切な判断ができていた。(松井) →十分

総合評価

評価結果

コメント欄

- ① コロナ禍での就職内定は厳しい状況かと思いますが、弊社においては例年通りの内定者数を出させていただきました。今後につきましても採用スケジュール等の情報共有をしていきたいと思っておりますので、引き続き宜しくお願い致します。(杉本)
- ② コロナ禍はまだまだ続き、今も刻々と状況が変わっております。そのような中で学校という大きな組織をタイムラグなく即時対応させていくのは想像以上に大変なことかと思っております。
特に新宿という繁華街に在ること、また海外からの学生受け入れを実施していることなど、日本電子を取り巻く環境は非常に厳しいかと思われ、コロナへのプレッシャーや感染対策徹底への取り組みは地方の学校にはない厳格さで取り組む必要があったことと推察されます。先生方も相当お辛い状況だったかと思われませんが、そのような状況にも関わらずみなさま力を合わせ元気に学校運営されていることに安心いたしました。
状況は決して良くはなく、今しばらく緊張の時が続くそうです。私ども委員もお力になれることがございましたら喜んで協力させていただきますので、いつでもお声がけください。(石本)
- ③ 引き続き、とても真摯に取り組んでいらっしゃる姿がみてとれて、素晴らしいと感じました。コロナ渦において、その対応についてお聞かせいただくと、日ごろからの御校の姿勢、取り組みが良い形で発揮されたのかなと感じます。
とても真面目で真摯な対応を実感した半面、御校の学生さんの魅力とはなんだろう？という点についてはまだ見えていない印象があります。(“真面目さ”という点以外です)
御校でしかできない取り組み、教育を経た学生が「魅力」という武器を持てれば、本当に素晴らしい学校になると思います。(井沢)

- ④ 全体として、上記にも記載しましたが、どちらも完璧ではないものの、十分に前向き取り組んでいらっしゃると感じています。今日は中間発表でしたが、何を持ってして完璧というのかはこの企業、学校も模索しているところですので、来年の結果が楽しみに思います。
- 気になる点は、オンライン中心の授業になることは、このご時世上致し方ないことではありますが、各ジャンルのクリエイティブの向上の大事さに加え、学生みなさんのコミュニケーション力に若干の心配を感じています。私共の事業者も新卒社員の教育に始まり、プロジェクトを円滑に進めるにあたり、オンラインでは十分なコミュニケーションが取れていない現状もありますので、学生にとっては一生に一回の体験ですのでなかなか難しいと感じています。他の専門学校より意識も取り組みも平均以上の御校の次の取り組みに期待しています。(木下)
- ⑤ 学生は企業でいえばお客様。入学前から卒業後も学生を大事にし、見つめ続けている点が素晴らしいです。そして、その根本にあるのが学校の理念であり、それを職員が実践し学生に伝える伝道師となっていると思います。形にとらわれず、より良い形を創造する思いも良く伝わりました。ぜひより良い人材輩出を続けて下さい。(舟山)
- ⑥ コロナの中で、我々企業自身も大きな変革を経験しております。その中で確実に対応できる会社とできない会社（これは人も含め）が出てきている気がします。コロナが終わってもこの働き方の変革は確実に待たなしの状況ではあり、貴校でも是非引き続きオンラインでの取り組みは継続的に続けていただければと思います。(新)
- ⑦ コロナ禍により、新しい教育や授業の在り方が必要となりますが、オンライン学習では、一方的な授業となり、生徒のフォローアップが難しい側面もあります。授業で学ぶ専門的な知識や経験の他、学生同士や先生たちとのコミュニケーションにより人間形成が行われ、将来、社会で活躍できる大人になっていくとも考えられますので、コロナ対策の元、対面での授業も大事にして頂ければと思います。授業などの大人数では発言しにくい場合は、3~4人程度の少人数でのグループワークや課題取り組みなども良いかと思います。(佐々木)
- ⑧ 全体を通して、非常に熟慮されているという印象です。引き続き、よろしくお願い致します。(伊藤)
- ⑨ コミュニケーションツールを生かして、グループ学習、モチベーションアップにも活用してみてください。Remo やスペシャルチャット、クラスターなどが良いかと思います。(篠原)
- ⑩ いつもながら全体的に様々な施策で運営をされていることがわかりました。チャレンジ的な部分も多く見受けられ、このような状況ですが逆に今後の飛躍に期待しております。しかしながら、日本企業の雰囲気や新規採用に消極的なのが気になります。以前からお伝えしておりますが、就職だけでなく起業する取り組みも応援できたらいいと思います。(満岡)
- ⑪ 専門職大学もでき、より専門学校としての位置づけを明確化し、就職しづらい環境にならないように整備する必要があると、専門学校でしか学べないものは何かを

続けて考えて頂ければと思います。全体的には学校運営としては素晴らしい努力をされていると思います。最後に昨日 U22 プログラミング・コンテストを実施しましたが、ぜひ、御校にも毎年計画的に参加をしていただければと嬉しく思います。(原)

- ⑫ 学生に対する感染症対策の指導についてもお話しが聞けると良かったです。(米井)
- ⑬ 今年度はコロナ禍で学校運営・教育活動等すべての面で、計画通りに運ばないと考えられます。持ち直すまで数年かかるとは思いますが、頑張ってください。(松下)
- ⑭ 弊社においても、様々な取り組みにおいてオンラインでの実施に切り替えた事もたくさんある中で、その経験やナレッジを今後活かしていく事が大事であると考えている。今後もオンラインでも出来そうな事、やはりオフラインでないといけない事の検討や選定、取り組みの内容によってはオンとオフのどちらも用意した上で、自由に選択出来るようにする事もまた、サービス内容としての向上にも繋がるかもしれない。(清水)
- ⑮ アドミッションポリシーは、留学生に関しては、試験前(入学前)にそんなに意識していないように思います。入学案内や資料の扉のページにもあるので、指導をするこちらも学生に理解を促すようにしたいと思います。また、教師だけではなく、学生自身にもポリシーを念頭に置いて、受験をしてもらったり授業を受けてもらったりできればいいのではないかと思います。ちなみに、専門学校さんの中には、アドミッションポリシーを面接時に読ませて確認するところもあるようです。
また、学生マイページの導入も、学生さんにとっても便利なシステムで、喜ばれていることと思います。学生対象のアンケートでは、入学時から卒業時まで一貫して調査し、分析をしていると聞きました。分析の結果にも関心があります。(会田)
- ⑯ 学校法人という立場上、難しいかもしれませんが、オンライン授業の内容(動画)を現役の生徒だけでなく広く公開することは可能でしょうか。例えば月額 1,000 円で全学科の最新授業見放題など、社会に貢献するとても素晴らしいコンテンツになるものと存じます。(谷)
- ⑰ コロナ対策、教育内容についてきわめて細かく、気くばりが行われている。現在のテーマを認識し、教育にあたっていると思います。(小澤)
- ⑱ オンラインでの保護者会の取り組みは良いと思います。遠方の方も出席しやすい環境だと思います。(厚川)
- ⑲ 特に意見等はありませんが、学科の先生が就職活動に関して相談に親身に乘っていただける環境はととてもありがたいと思います。(大久保)
- ⑳ オンライン授業の実施によりコロナ禍でも授業を継続できたが、自宅での学習に対するモチベーションを維持するのは簡単ではないと感じた。また、クラスメイトとのコミュニケーションの機会が減ったのも、学習に対するモチベーションに深く関係しているのではないかと感じた。以上のことから、生徒同士のオンライン環境でコミュニケーションを促進する活動があれば良いのではないかと感じた。(松井)

IV 令和2年度第二回学校関係者評価委員会議事録

日 時：令和2年11月30日 13:30～16:30

場 所：日本電子専門学校 1B11 教室（オンライン）

学校関係者評価委員：

名 前	所 属（役 職）	区 分
杉本 武史	株式会社びえろ（人事総務部リーダー）	企 業
石本 則子	株式会社スタジオフェイク（代表取締役）	
井沢 祐	株式会社スタジオフェイク （研究開発部 ディレクター）	
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー（取締役副社長）	
舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン（社長室長）	
新 和也	オートデスク株式会社 （メディア&エンターテインメント テリトリスマネージャー）	
渡邊 登	合同会社ワタナベ技研（代表）	
伊藤 好宏	日本サード・パーティ株式会社（技官）	
篠原 たかこ	CG-ARTS（教育事業部 事業部長）	
満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構（理事）	
原 洋一	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 （理事・事務局長）	
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会 （研修委員会 副委員長）	高校教員等
勝間田 清一	日本大学生物資源科学部（非常勤講師）	
松下 秀房	目白研心中学校・高等学校（理事 校長）	
清水 潤一	株式会社ウィザス （教育運営部 教務 ICT 推進室 室長代行）	日本語学校
会田 由紀子	東京ギャラクシー日本語学校（教務部 副部長）	

谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト (プロジェクトマネージャー)	卒業生
厚川 万里子		保護者
小澤 博太郎	百人町西町会 (会長)	地域住民
大久保 匠真	コンピュータグラフィックス研究科 (3年)	在校生
松井 双綺	高度情報処理科 (2年)	

日本電子専門学校参加者：

名 前	役 職
船山 世界	校長
杉浦 敦司	副校長
五十嵐 淳之	クリエイター教育 部長
大川 晃一	エンジニア教育 部長
高橋 陽介	キャリアセンター長
大野 通江	学事部長

進行：

- | | | |
|-------|---|----------|
| 13:30 | 1. 開会（挨拶、配布資料確認） | 五十嵐 |
| | 2. 校長挨拶、学校関係者評価全体説明 | 船山 |
| | 3. 学校側参加者紹介、学校関係者評価委員紹介 | 五十嵐 |
| | 4. 学校関係者評価の進め方説明 | 五十嵐 |
| 13:50 | 5. 議長選出、委員会開始、議事進行 | 議長（舟山委員） |
| | 6. 令和2年度中間報告 | |
| | 新型コロナウイルス感染症禍対応 | 船山 |
| | 令和2年度 教育重点項目 | |
| | (1)「建学の精神」の実現に向けた
「教育の質の保証・向上」 | 杉浦 |
| | (2)EM・IRによる組織的學生指導体制の充実 | 高橋 |
| | (3)學生主導で社会人基礎力を養う
キャリア教育の充実 | 高橋 |
| | (4)クリエイター教育の重点項目 | 五十嵐 |
| | (5)エンジニア教育の重点項目 | 大川 |
| | ・・・評価結果の判定（評価）・・・ | |
| 15:00 | 7. 意見交換 | |
| 15:30 | 8. 全体会終了 | |
| 15:35 | 9. 終了 | |
| 15:35 | 10. 分野別分科会（企業・職能団体委員）
分野ごとにオンライン会議システム（Zoom）を利用し実施 | |
| 16:30 | 11. 分野別分科会終了 | |

1. 全体会自由意見

自由意見：

令和 2 年度中間報告の評価（十分・不十分）終了後、学校関係者評価委員より自由に意見を頂戴する時間を設けた。次年度の学校運営や教育活動に直接的、間接的に反映できる意見も多々あり、以下にその記録を報告する。

【(企業/アニメ) 株式会社ぴえろ 杉本様】

コロナ禍での対応に追われた一年となった。就職活動内定については例年通り採用した。おそらく次年度も変わらないと思う。特にアニメ業界の制作分野には影響が及んでいないものの、アフレコの現場が密になるという点が問題となっている。繰り返しになるが、今年度と変わらない採用スケジュールを次年度も検討しており、作成次第情報提供していきたい。

【(企業/ゲーム) 株式会社スタジオフェイク 石本様】

コロナ禍の中で日専祭を執り行った、先生方のご判断に敬意を表したい。そして、卒業生についてゲーム業界は大変厳しい状況が続いていると思う。頭を使い、先生方と取り組んでいかなければならないと感じている。教育重点項目の以前より検案となっている、「ポリシーの作成プロジェクト」について学校として推進していく姿勢が見えた。素晴らしいと思う。引き続き、頑張っていたいただきたい。教員の行動指針について、表記順を見直しても良いのではないかと感じた。各社のクレドなどを参考にし、表記の順番がどうなっているのか見直しても良いのではないかと考えた。校長先生に是非お考えいただきたい。エンジニア教育の大川先生の報告について、非常に分かり易かった。素晴らしいと思った。刻々と状況が変わりつつあるが、新宿という繁華街にある学校である為、いやがおうでも注目が集まる。大変だと思うが、頑張ってください。我々委員も協力させていただきたいと思う。

【(企業/ゲーム) 株式会社スタジオフェイク 井沢様】

このコロナ禍の中で、きっちりされていると感じた。授業を2ヵ月間遅れてスタートしたものの、夏休み返上で2週間遅れまで取り戻したと報告を聞き、驚いた。遅れはどの学校でもあると思うが、2週間まで戻せたのは先生方の努力だけでなく、学生さんの意識も高くないと実現できなかったのではないかと。さすがだと感じた。クリエイター分野での就職が6割に落ちてしまっていると聞いたが、その中で私が実感していることは、授業や講義がオンラインになることでスキルアップや教えるとい

った点は、今まで通りにならない。

【(企業／デザイン) 株式会社ジェイスリー 木下様】

様々な施策に取り組みされており、立派だと感じている。我々企業も、臨時対応にうまく乗れて行けていない部分もあり、後手に回ることもたくさんあるが、これだけの施策を早期にやられていて、授業の時間も縮められて多大な努力をされており、評価も高いと感じている。

教育重点項目及びこの対策については、十分だと思っている。

学生が感じ取られている部分については、今日の発表の中ではつかみきれていない部分があると感じた。

2週間で授業の遅れを取り戻したカリキュラムとしては取り組めたけれども、学生に対してはどうだったのか見え辛い点があった。

私も産学連携で授業を持っている関係上、どのくらいところで学生が受けられた授業で反映させていくのか拝見させていただこうと思う。

オンラインが多くなってしまったことで、新入社員が出遅れた感があり、コミュニケーションをとることにおいては、難しいものがある。ただ、コミュニケーションデザインと呼ばれる部分もある為、実際のリアルコミュニケーションが伸びにくい環境と感じている。今後、慣れていかなければならない部分もある為、今後どのように対応されていくのか期待している。

【(企業／CG・映像) オートデスク株式会社 新様】

一通り拝見させていただいて、コロナはすでにオンライン授業に移行できている。授業の遅れも2週間程度ということで、素晴らしいと思った。十分な形だと思う。

教育重点項目で、アンケートの結果を細かく見させていただいて、ほとんどの項目で去年より、すべて数字が上回っていると。重要なことは全国平均と自分たちの学校との戦いだと思うので、これが毎年上がっていけば、5年後、10年後素晴らしい学校に変わると思う。

最後、総括として、コロナの中で企業も大きな変革を迎えた。私たちの会社は、本社がアメリカにあり来年(2021年)4月まで、物理的イベントも訪問もするなど指示が来ている。

おそらくこれが世界の標準なのかと。日本は割と感染者が少ない為、あまりそういうことをしている企業は少ない。日本の顧客を見ていると、対応できる会社、そうでない会社が出てきている。五十嵐先生からクリエイターが6割就職できていないという部分を聞くと、あまり対応できていないのかなと思う。

私たちはライセンスを販売しているので、去年と比べて売り上げが落ちるのではないかと考えていたが、新規ライセンスの売り上げが良く、去年より新人が増えているはず。ただ、新しい会社での購入が増えている中、既存の会社は苦しんでいるように感じている。

先生方もアンテナの張り方を少し変えてみるのもいい。3Dに関していえば非常に需要は高い。引き続き頑張っていたきたい。

【(企業／情報) 合同会社ワタナベ技研 渡邊様】

コロナ対策について、頑張って衛生対策されているようだが、もっとオンラインを活用した Zoom やミーティング等の協調環境 (ホワイトボードを使ったり、ディスカッション) を今のうちから経験しておく、現場に入った時に積極的にオンラインを活用しながら効率的にクリエイティブに物が作れると思う。リアルな現場をしっかりとやるというところもあるかと思うが、オンライン環境を充実させて、クリエイティブ物が作れるような人材の育成にも取り組んでみてはどうだろうか。

もう一つが、情報処理技術者試験が流れてしまった。高度な資格が取れる優秀な人材にとっては、せっかくの機会が受けられない。もったいないことをしている、かわいそうなことをしていると思っている。この辺について、学校としてフォローしてあげる必要があるのではないか。エンジニアの素晴らしさというのは知識として、スキルとしてどういったものを持ち、証明できるのか。例えば、エンジニアの世界ではギタハブラのコミットの話や、アプリストアで公開してどれほどダウンロードされているかなどで、一般的な数値化をすることでどのくらいのことができる人間なのか知るうえで、面接をしなくてもわかっちゃうぐらいのものができている。その辺をいかに、学生に対してできる人、できない人と分けながら考えていかななくてはならないと思っている。

スマホアプリを作っている人たちに関しては、その辺の意識ができているだろうと思うが、もうちょっと、情報処理等の学科でも **SIer** を相手にするにしても、開発のスタイルも少しずつ変わってきている。その点を心得ていただきながら頑張っていたきたい。

【(企業／モバイル・AI) 日本サード・パーティ株式会社 伊藤様】

非常に有効な対応を取っている。教育重点項目に関して学校側から一方的ではなく、アンケートを実施しフィードバックを経て対応されたり、素晴らしいと思ったのが校長先生との意見交換。これからどんどん発展していくのではないかなと思う。こういった学生への歩み寄りが非常に伝わってきたと思う。引き続きお願いしたい。

最後のエンジニア教育について、インフラのエンジニアでは **AWS** が主流となり、**AWS** どう実現するのか。クラウドベースになっているので、拡張し、力をつけていってもらいたい。研修がオンライン化し受講が難しい、しかしだからこそ受講してもらいたい。なぜなら、これから学生においてはオンラインベースで今後向かっていくと思う。学生から見て、どのように話をしたらいいのか、どんな風にみえているのかすごい参考になると思う。

私も社内オンラインで受講しているが、受講した際に差が生じる。オンラインでも良くない状況が、これで 30 万円もするのかと感ずることもある。座学が急にオンライ

ンとなり、価格は同じというのも含め、勉強になると思う。

【(職能団体／CG・映像) CG-ARTS 公益財団法人画像情報教育振興協会 篠原様】
私どもは検定試験を実施しており、先日も学生に受けていただいた。
検定試験への取り組みや、コンテストへの取り組みについてきちんとやろうとする姿勢を学生たちに提供できていると感じている。
なかなか演習が難しいと感じている部分があると思っている。御校含め、他の学校もオンラインなど取り組まれているが、グループワーク的な点でいえば、新しいコミュニケーションツールである、リモやギャザといったものを試しながら、やっていただければ学生同士のコミュニケーション力もレベルアップしていくのではないだろうか。
審査の時にもお話をさせていただいたが、CG系、映像系のプロダクションに関して今期好調だったと伺っている。今期ちょっと遅れている部分があるかと思うが、就活の部分でお手伝いできることがあればご相談ください。

【(職能団体／情報) 一般社団法人 IT 職業能力支援機構 満岡様】
素晴らしい政策をされている。コロナ禍においてオンライン前提になるが、IT業界は基本的にテレワークをベースにしている。学生の部分から、社員もそうだが、自己管理能力が問われるようになってきている。プロセスよりアウトプット重視、それ以外の時間何をやっているのかが特に問われてくる。具体的に言うと、健康管理、問題にぶつかったときどのように改善していく手法。我々既存のメンバーからしても、模索しているところがある。企業の中にも評価指針というものがあり、最近変わってきている。机に8時間向かっていればお給料がもらえるという時代が根底から崩れ始めている。ほかの時間にいかにプラスアルファなことを、自分で管理できるかが今後問われてくる。学生自身が主体となって取り組む姿勢が我々業界としても、見たいところ。そこを押し出せるような、指針や評価というのは学生の内からあっても良いのかもしれない。
もう一点、制作関係の方々は潤っているということのようだが、日本企業全部で考えると保守に回っている。新規投資というのを控えているところがある。そんな中、新規採用が消極的になっていると感じる。以前から伝えているのは、学校を卒業したタイミングで就職するだけでなく、小さいながらも起業してみると入り組みを学校の中から、応援する流れがあっても、これだけ企業人の方が多いので巻き込んでいくのも楽しいのかもしれない。

【(職能団体／ビジネス) 一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 原様】
毎回この会合に参加させていただいているが、日本電子さんは計画的であり全体的によくやられていると関心を持っている。その中でも、教育重点項目という点では、総合的に良い学校というアンケート結果も出ている。また、新型コロナ対応という点においてもよくやられているなど感じている。新型コロナに関しては、いくつかポイント

トを抑えて聞かせていただいたが、例えば学校運営の中でも大変だが世の中の的にも二か月間の授業料対応はどうなんだろう、返金してほしいなどの声もあったかと思うが、経済支援やられていたとか、授業の遅れまたはネット環境貸与など、いわゆる生徒一人ひとりの不平等感はどうなのだろうかとか、その辺は日程を変更し対応をされていたと伺った。

あと、いくつかあるとすれば先生、生徒の感染状況の確認のようなもののやり方についてはどうだったのだろうかとか、企業でもあるが精神的ケアの態勢ですとか、世の中自殺者の方も多くなってきているので、その辺のケアの対応策はどうなんだろうとか、留学生の方も多いと伺っているの、その辺の対応についても聞かせていただければよかったですと感じている。

総合的な点でお話しすると、今は日本電子さんもグループで専門職大学が出来てきているが、より専門学校としての位置づけを明確化して、就職し辛い環境にならないように整備をより頑張っていたいただきたい。専門学校でしか学べないものは何かとかを追求して、全体的に、学校運営の方を頑張っていたいただきたい。

最後になるが、私たちはアンダー22 プログラミングコンテストを昨日実施した、参加者が少ない為、計画的にご参加いただきたい。

【(職能団体/電子) 一般社団法人組込みシステム技術協会 米井様】

教育の重点項目については分科会でお話をしたいと思う。コロナ対策について2つほど。

一般的なハードと申しますか、スペックに関してはきちんと網羅されていたと思う。対策としては良かったと思う。あとは学生に対して、どういう対策の指導をしていたのか聞けたらよかったですと感じている。

難しい点だと思うが、今日の資料だと実習の写真と企業説明会等の写真だとだいぶ密度が異なっている。実習の風景なんかは感覚的にすごい密だと感じてしまう。

その点については今後どの場所を使うかにもよるが、検討いただくと保護者様も学生も安心することが出来る。

【(高校教員等) 勝間田様】

コロナ対策で工夫された点について苦労されているのではないかと感じた。オンライン授業について、以前の学生より学歴が落ちたということが無いようにしたい。実習関係は特に多いと思うので、そちらのオンラインが必要ではないかと思う。

また、外国籍の学生が多い点について、こういう環境での日本へのイメージが悪くならなければいいと感じている。それから、就職浪人が出ないことを祈る。

自分も教育関係なため同じようなことをやっている。オンラインは非常に便利ではあるものの、欠点としては仲間同士が集まって、同窓意識というのか人間関係の作り方について来社会に出て友達関係から情報を得るといのはとても重要に感じる。

コロナである為、オンラインに頼らざるを得ないが、同窓意識が大切ではないかと感

じた。

【(卒業生) 谷様】

座学の授業を配信されているかと思うが、これを動画コンテンツにして一般の方に向けて有料・無料問わず社会貢献に使えないかなと思った。そのほかについては、評価シートに記入した。

【(地域住民) 小澤様】

まず初めに、コロナの件だが現段階でできることをやっていたかと思う。特に、学費の支援等について学生の勉学意欲を高めることにも繋がりますし、素晴らしいことだと思う。次に、教育のことについて、卒業生アンケートの結果が少しずつ出てきているが、建学の精神をベースにしている項目について、ポリシーの充実、基本的な方針は十分教育に現れてきている。全体的にきめ細かく、心配りが行き届いた内容になっている他、十分職員、スタッフの方々に現在必要なテーマに沿って十分に教育されていると感じている。

【(保護者) 厚川様】

オンラインでの保護者会の取り組みはとても良いと思った。遠方にお住いの保護者様も参加しやすいと感じた。就職活動について、とても厳しい状況だと思う。私の子供もまだ就職活動中。学校からの企業情報も重要なので、学生全員が就職できるよう支援をお願いしたい。

【(在学生) 大久保様】

コロナ対策について、入口や教室に消毒液が置かれているのはありがたいが、体温センサーに関して何度か試しているが体温計で図った温度と異なる数値が表示される。人によって異なると思うが、私は設置している意味は無いと思う。就職活動について、とても厳しい状況である。キャリアセンターの教職員の方々や、学科の先生方も親身に相談にのってくれている。普段からかかわっている先生方である為、自分たちの事を良く理解してくれている。

【(在学生) 松井様】

コロナウイルスの影響で、授業に遅れが出ていたが教職員の皆様のおかげで無事遅れを取り戻しつつある。大変感謝している。学校の感染対策について、消毒液の設置や密にならない授業を取っていることに関しては十分できている。現実、実習がそこまで広くはない為、密になってしまったり、友達同士で近い距離で会話をしてしまう。

オンライン授業に関して、私は千葉に住んでいるが、もともと遠距離から登校している為、登校時間を自習時間に変えることが出来る。しかし、学校に行く回数が少なくなる為、モチベーションの維持が難しい。気が緩んでしまったり、先生に質問ができなくなったりしている。

先生とのコミュニケーションに関して、Zoom やチャットで連絡を取っているものの、友達同士のつながりが無くなってしまう点が残念。先生が話をしている間に、友達とチャットをしてお話ができない。近くの席の友達に教えてもらったり、逆に教えてという生徒同士のコミュニケーションが無くなっている。友達同士で教えあうとモチベーションが上がることにつながる為、オンライン授業のデメリットはそこだと感じた。

個人的には、別のチャットツールや、ボイスチャットを使い教えあっているが、あくまで自発的な取り組みである為、大多数の生徒が連絡を取り合えていないと感じている。

【(企業/電気) 株式会社横浜環境デザイン 舟山様】

理念やポリシー、行動指針について作るのは非常に簡単ではあるものの、大事なのは実行や体現していくこと。日本電子専門学校教職員の皆様は、その体現者であり、伝道師であると感じている。企業にとっても、学校にとっても苦しい時代がやってくると思うが、信念を曲げずしっかりと前を向いて、頑張っていたいただければ私たちの励みになる。

2. 分野別分科会

分野別分科会は、以下の次第に従い、各学科の教育内容について、企業や業界団体の委員より評価を受けることを目的として行っている。同時に、業界の動向や最新事情などの収集や人材育成に関する意見交換などを積極的に行っている。

【次第】

1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 今年度の前期教育活動報告
*新型コロナウイルス感染拡大に伴う各学科の対応状況 等
3. 意見交換
4. その他

【分野】

- ① 情報分野分科会
- ② ネットワーク・セキュリティ分野分科会
- ③ ビジネス分野分科会
- ④ 電気分野分科会
- ⑤ 電子分野分科会
- ⑥ ゲーム分野分科会
- ⑦ アニメ分野分科会
- ⑧ デザイン分野分科会
- ⑨ CG・映像分野分科会
- ⑩ モバイル・AI 分野分科会

情報分野 分野別分科会 議事録

学 科： 情報処理科、情報システム開発科、高度情報処理科

出席者： ①学校関係者評価委員

(企業) 渡邊 登 合同会社ワタナベ技研
代表取締役

(合計1名)

②日本電子専門学校

出崎 誠司 情報処理開発科 学科長
蓮見 圭亮 同 テクニカルチーフ
糠盛 創 高度情報処理科 学科長
柳橋 宏樹 情報システム開発科 学科長 (議事担当)

(合計4名)

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 今年度の前期教育活動報告
*新型コロナウイルス感染拡大に伴う各学科の対応状況 等
3. 意見交換
4. その他

議 事： 議題 今年度の前期教育活動報告について (オンライン授業取り組み：全学科共通)

<意見>

- ・オンラインでは課題のコピーが容易であり、学生が各々で考えないと作れないような課題を出していくのも良い。
- ・学生の PC 環境やネットワーク環境が異なるという点については、クラウドを活用することで環境依存を減らすことはできないだろうか
>AWS や学校への VPN を活用することを検討したが、前者は費用面、後者はネットワーク設備の問題で導入には踏み切れていない。
- ・Google From や moodle の取り組みは、アフターコロナにおいても活用していくとよい
- ・全体会でも意見として挙がったが、会社においてもオンラインで以前よりもアウトプット重視になってきている。学校のオンラインでの実習についてもそうなるのではないか。
>一方で以前と比べて学生フォローがしにくくなったこともあり、授業についていけずアウトプットを出せない層のフォローをどうしていくかが課題である
- ・オンラインになって教育の質が落ちているのでは？といわれることがあるが、学生が将来「オンライン世代で良かったね」と、先生方の努力で言われるようになってほしい。

ま と め： 今回、今年度から始まったオンライン授業について各学科での取り組みについてご理解いただき、様々なご意見をいただきました。評価委員から頂いた意見を今後の教育活動へ活かすよう、各学科で検討していきます。

以上

ネットワーク・セキュリティ分野 分野別分科会 議事録

学 科： ネットワークセキュリティ科

出席者： ①学校関係者評価委員

(企業) 佐々木 伸彦 ストーンビートセキュリティ株式会社
代表取締役 チーフ・セキュリティ・アドバイザー

(合計1名)

②日本電子専門学校

姜 怜和 ネットワークセキュリティ科 学科長
園田 昌平 ネットワークセキュリティ科

(合計2名)

- 次 第： 1. 今年度コロナ禍における授業の取り組みについて
2. 昨年度の教育活動実績について
*新型コロナウイルス感染拡大に伴う各学科の対応状況 等
3. 意見交換
4. その他

議 事： 議題1 コロナ禍における授業の取り組みについて

<意見>

- ・授業中に質問しづらい、質問のタイミングがわからないなど、孤立感をなくす努力が必要と思われる。
- ・対面授業と違いオンライン授業では、学生の様子がわかりにくく、一方向の授業になりがちなので、クラス内及び教員とのコミュニケーションが取れる工夫がほしい。
- ・コロナ禍でオンライン授業を進めるのは難しい状況は理解した。
- ・特に新入生でいきなりオンライン授業では、友達作りなど人間関係の部分を重要視することが大切と思われる。

議題2 昨年度の教育活動実績について

<意見>

- ・例年どおりの進級状況について理解した。
- ・入学前と入学後の学習内容のイメージのギャップがあり、その部分の解消が難しいことは理解した。
- ・目標資格の取得については、100%の取得率を達成したことは望ましい。
- ・就職状況について2クラスとも100%達成し、連続で高就職率の維持していることは望ましい。
- ・企業側も先が見えない状況であるので、今年度の就職について難しい状況は理解した。

ま と め：

今年度のコロナ禍の状況で、オンライン授業を実施したが、例年以上にフォローアップが重要で孤立感をなくす工夫が必要である。対面授業の重要性は再確認したが、引き続きオンライン授業を実施するのであれば、運用面での工夫や実施時期などの工夫（ツールやシステムでは限界があるため）が必要である。

また、特に新入生のオンライン授業では希薄になる人間関係など人とのコミュニケーション、クラスの仲間意識などを持たせられるように努力する必要がある。

以上

ビジネス分野 分野別分科会 議事録

学 科： 情報ビジネスライセンス科

出席者： ①学校関係者評価委員

(団体) 原 洋一 一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
理事 事務局長

(合計1名)

②日本電子専門学校

谷口 英司 情報ビジネスライセンス科 学科長

(合計1名)

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 今年度の前期教育活動報告
*新型コロナウイルス感染拡大に伴う各学科の対応状況 等
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題1 今年度の前期教育活動報告 (配布資料をもとに報告)

(1) コロナ禍におけるビジネス分野 (情報ビジネスライセンス科の対応状況について)

<意見>

- ・ 来年以降はどうかを考えると、いつも通りにならない生活を模索した方が良さそうである。オンラインの良い点を授業でも積極的に取り入れる方が前向きで良いのではないかな。
- ・ 今まで通りに戻るのが良いのか。社会人になった時に、今回の様なことはこれからいくらかでも起こり得るので、学校にいる間に経験出来るのは、社会人として対応出来る可能性があり、かえって良いのかもしれない。
- ・ プログラミングコンテストをオンラインで行ったが、特に問題無く実施出来た。今の学生の方がかえって現在の状況に対応できるのではないかなと思う。
- ・ 引きこもりの子供たちを世の中に出すタイミングという気がしている。セキュリティー関連では、引きこもりの人をホワイトハッカーにしようという動きもある。外には行きづらい、コミュニケーションが苦手な人はいるので、これまでの様に何が何でも登校ということではなく、これからは違う可能性もある。埋もれている人材を引き出せると面白いとも思う。
- ・ 就職氷河期世代の支援をしている。なかなか活発に動いていない人の対応が、新型コロナウイルス対応の中で上手く出来るかもしれない。
- ・ これからは資格が指標としてより重要。専門学校の特徴の一つだと思う。
- ・ これからは、目的を持って専門学校に行く人が主流になると思う。受け入れ側としても上手くマッチできれば良いと思っている。
- ・ デジタル庁の設置もあり、国全体の方向性だと思う。専門的なことを学んだ人材やデジタル全体を勉強する人材などを社会に送り込んで頂けると有難い。

<質問>

- ・ 全体に関わる場所かもしれないが、資格試験関係の影響はあったのか。
- 本科の場合、試験会場が学校なので、スケジュールが少し後ろにずれた程度で大きな影響は受けていない。

(2) オンライン授業導入による課題と解決策

<意見>

- ・ オンライン授業だと、学生同士の教え合い、コミュニケーションが取れない。日頃、企業では、いわゆる雑談、横の人と話すなどを行うようにしているが、オンラインだと難しい。雑談というとは少し違うが、学校でもそういう時間を取って設けると違うのかと思う。
- ・ オンラインでは、非公式のコミュニケーションはどうすれば良いのか、悩ましい問題である。雑談的なことは課題である。
- ・ オンラインだと、話したくてもタイミングが難しい。1対1はまだ良いが、3人以上になると特に難しい。
- ・ 対面授業よりも一方的な授業になりがちである。VRを使って教室の雰囲気、臨場感を出しながらという方向もあるが、まだまだこれからである。

その他

特になし。

まとめ: 伺った意見は、今後の学科運営にとって参考になるものであったので、今後の検討課題とし、反映を目指していく。また必要に応じて、教育課程編成委員会での検討事項としても取り上げる予定である。

以上

電気分野 分野別分科会 議事録

学 科： 電気工事技術科、電気工学科、高度電気工学科

出席者： ①学校関係者評価委員

(企業) 舟山 大器 株式会社横浜環境デザイン

PV 事業部 営業戦略室 室長

(合計 1 名)

②日本電子専門学校

高橋 俊幸 電気工事技術科 学科長

山路 哲平 電気工学科・高度電気工学科 学科長

(合計 2 名)

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 今年度の前期教育活動報告
*新型コロナウイルス感染拡大に伴う各学科の対応状況 等
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題1 今年度の前期教育活動報告について

<意見>

○電気工事技術科

- ・昨年度の教育課程編成委員会での意見をうまく活用できており、特に今後も需要が増える自然エネルギーについて、授業内容を充実させていければ良いとご意見いただいた。

○電気工学科

- ・昨年度の教育課程編成委員会での意見をうまく活用できており、引き続き半導体技術を体系的に学べるよう調整していければ良いとご意見いただいた。

○高度電気工学科

- ・昨年度の教育課程編成委員会での意見をうまく活用できており、座学や実習について並行して省エネ技術を学ぶ準備を今まで通り続けるのが良いとご意見いただいた。

議題2 新型コロナウイルス感染拡大に伴う各学科の対応状況

<意見>

※各学科のオンライン授業日数について

○電気工事技術科

・1KK 前期 (2日/5日)、後期 (1日/5日)

・2KK 前期 (3日/5日)、後期 (1日/5日)

実習授業が多いこともある中で、感染対策に配慮して事業が運営できているとご意見いただいた。

○電気工学科

・1KJ 前期 (4日/5日)、後期 (3日/5日)

・2KJ 前期 (3日/5日)、後期 (3日/5日)

実習授業以外はオンライン授業を実施しており、実習授業も密回避のため分散登校を実施しているため、感染対策が十分とられているとご意見いただいた。

○高度電気工学科

・1KZ 前期 (2日/5日)、後期 (0日/5日)

・2KZ 前期 (4日/5日)、後期 (2日/5日)

・3KZ 前期 (3日/5日)、後期 (4日/5日)

電気工事士の実習授業の関係で、一年次はオンライン授業による対策がとれていない

ことを説明したところ、人数も少なく、また感染対策も実施できているため、運用に特に問題無いとご意見いただいた。

議題3 コロナ禍における就職活動の状況と結果について

<意見>

学科	人数	就職率
電気工事技術科	26名	100%
電気工学科	27名	100%
高度電気工学科	15名	100%

- ・学校閉鎖期間を含め、オンラインツールを用いて学生の就職サポートを徹底し、就職率100%を達成していることについて、状況に応じて十分な学生指導ができていると評価していただいた。
- ・企業側の意見としても、今後オンラインツールを活用した採用活動は続くことも予想されるため、現時点で実施しているオンライン上での学生支援も力を入れていることに対し、肯定的な意見をいただいた。
- ・創エネ、畜エネに関する需要も益々高まっているため、学生の進路の選択肢として入れると良いと意見をいただいた。

議題4 中退学状況

<意見>

- ・中退学の理由について説明し、いずれも仕方ない内容で、対応も十分実施していることご意見いただいた。

学科及びクラス		年度初期人数	年度終了時人数	ドロップアウト理由
電気工事技術科	18KK	20名	18名	・長期欠席のため(1名) ・家庭の事情(1名)
	19KK	30名	26名	・家庭の事情(1名) ・健康上の理由(2名) ・経済的理由(1名)
高度電気工学科	17KZ	9名	9名	—
	18KZ	15名	15名	—
	19KZ	8名	8名	—
電気工学科	18KJ	28名	27名	・健康上の理由(1名)
	19KJ	33名	27名	・異業種への就職(1名) ・健康上の理由(3名) ・進路の見直し(2名)

まとめ: コロナウイルスの感染拡大が広がる中、十分に教育活動が実施できていると前向きなご意見をいただいた。電力業界も業界全体で過渡期にあるため、時代の流れに沿った教育をしていく必要があると改めて感じた。

以上

電子分野 分野別分科会 議事録

学 科： 電子応用工学科

出席者： ①学校関係者評価委員

(団体) 米井 翔 一般社団法人 組込みシステム技術協会 研修副委員長

(合計1名)

②日本電子専門学校

仲田 英起 電子応用工学科 学科長

(合計1名)

次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について

2. 今年度の前期教育活動報告

*新型コロナウイルス感染拡大に伴う各学科の対応状況 等

3. 意見交換

4. その他

議 事： 議題1 今年度の前期教育活動報告について

<意見>

・新型コロナウイルスに対する学科の取組みはしっかり行われておりオンラインと対面のバランスを考えて実施していると感じた。

・授業の進捗などが従来通りに行えるかどうか確認できた。

議題2 就職状況について

<意見>

・JASA で実施しているエンベデッドキャンパスについての状況について

・新卒の求人倍率は下がってきている。早期化と合わせ、4月以前に動き出させる方がよい。特に中小企業などは序盤に定員の6～7割を確保するケースが多い。

・来年度は前倒して活動させた方がよい。

議題3 資格対策で取扱う資格について

<意見>

・ソフト系ハード系を選択制にしたのはよい。

・ただ、基本情報ではIT全網羅なので、どうしてもストラテジーなどの内容もあり、電子系からすると範囲が広い。

・基本情報処理技術者試験はテクニカルな問題と戦略等の問題があり、現場のエンジニアでも勉強しにくい。応用情報のほうがテクニカルな問題を深掘りするので、学生には良いかもしれない。但し1年次に行うには難易度が少々高いため、検討をしてみてはどうか。

・応用情報はプログラミング、アルゴリズムなど素直な出題がなされており、エンジニア向きである(業界的には)FEはレベルの傾向が違い、レベルの差はあまりないと感じている。問題を初めて見る子にはむしろこちらの方が良いかもしれないと考えられる。

その他

<意見>

・新規導入の教材について(新FPGA)ボードについて報告し以下の意見を得た、AI・IoTなどに走りがちであるが、基礎基本をしっかり学習してほしいのでこの取り組みを継続して欲しい。

ま と め： 今回の分科会において、コロナ禍における学科の取り組みと業界の状況などについて貴重なご意見をいただいた。今後はここで得られた情報を基として教育活動に活かしていきたい。

以上

ゲーム分野 分野別分科会 議事録

学 科： ゲーム制作研究科、ゲーム制作科、ゲーム企画科

出席者： ①学校関係者評価委員

(企業) 石本 則子 株式会社スタジオフェイク

代表取締役

井沢 祐 株式会社スタジオフェイク

企画デザイン部マネージャー

(合計2名)

②日本電子専門学校

松島 秀夫 ゲーム制作科 学科長

栗原 央道 ゲーム制作研究科 学科長

井上 直樹 ゲーム企画科 学科長 (議事録作成)

伊藤 靖彦 ゲーム企画科 テクニカルチーフ

(合計4名)

次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について

2. 今年度の前期教育活動報告

*新型コロナウイルス感染拡大に伴う各学科の取り組みと対応状況

3. 意見交換

4. その他

議 事： 議題 オンライン授業における前期教育活動報告 (ゲーム制作科)

<意見>

- ・「見る」を意識させているが、動画を見て出来た気になっているところは問題かもしれない。オンライン (リモート) 授業は、集中力がとても必要になってくるので、「集中の仕方」など、ガイダンスやリテラシーで教えなければいけない時代なのかもしれない。
- ・資格対策授業の合格率が前年比 1 割減。先生方の、学生に対する気の配り方の感覚を変えていくことが求められる。
- ・今回のドキュメント資料が素晴らしい。様々な取り組みから、知見をためていき先生方の【実践知】をあげていただきたい。

議題 オンライン授業における前期教育活動報告 (ゲーム制作研究科)

<意見>

- ・資料のオペレーションの仕方が具体的にみられて参考になった。
- ・2 年制課程と 3 年制課程の違いとして、3 年生の気持ちが (進級発表会の中止など) 切れてしまったこと、ここが一番の問題だと思っていた。2 年間だと、走り切れる部分もあるが、3 年生のモチベーションの維持はとても難しい。
- ・声掛けやメンタルケア以外での取り組みの中でコミュニケーションの時間が増えたところもあるが、対面での実習を増やす試みをした賭けは正解であったのではないかと。
- ・メンタルケアの大切さや仕方も【実践知】として残して欲しい。
- ・オンライン (リモート) での制作時間に、企業のやり方を踏襲する必要はない。学校・学生のやり方で良いと思うし、学校・学科ならではの取り組みをして欲しい。企業側のやり方を真似すると学生時代だから学べるのが薄れてしまうのはマイナスになる。

議題 オンライン授業における前期教育活動報告 (ゲーム企画科)

<意見>

- ・他の 2 学科とは逆説的になるかもしれないが、オンライン (リモート) 授業を楽しく行われていることは、ある意味学生が映像でテレビや YouTube を見て楽しむこと、ラジオではリスナーみたいな雰囲気となり、これが良い結果になっているかもしれない。

- ・楽しく集中出来ていることも習熟度があがっている要因の一つかもしれないので、これも【実践知】として残して欲しい。
- ・企画科なので新しい取り組みの方法として良いと思う。

その他 就職対策について

<意見>

- ・オンライン面接に対する取り組みは良くできているように思うが、ここに来て最終面接を対面で実施する企業が増えてきた。そこで、これまでのオンライン面接の良さが対面で薄れてしまう印象があり、その結果不合格になるケースも増えた。対面での面接対策をおろそかにしないで欲しいので、両方の対策を分けて考えてほしい。
- ・現在、ゲーム業界は人余り状況。これからの新卒の入社については早急に検討が必要。エンターテインメント業界として、アミューズメント分野の新規プロジェクトはほぼストップ。ソーシャル・コンシューマを含めて1つが止まっているため、人が余っている。中途人材があふれ、人件費も落ちている状況で、新卒者の存在意義をどう見出していくかにフォーカスする時代になった。あらためて、新卒者の魅力・日本電子専門学校の魅力が何なのかを立ち返って考え、学生自身にその部分をアピールさせていけることが必要だと感じる。どこにでもいる学生ではなく、日本電子専門学校の学生はこういう学生なんだという「色のある学校であること」を強調しないとイケない。
- ・日本電子専門学校の学生は真面目な学生の印象が強い。さらに、ユニークでユーモアがあって元気な学生だとお褒め。学生の良さを生かし、足りない部分は補いながら、若い学生達を導いていくことに、教員がシフトチェンジする必要がある。これからでも、来年のために知見を貯めることに舵をきってほしい。
- ・日本電子専門学校の“魅力ってどこ”のイメージを付けてほしい。

ま と め： 今回、ゲーム分野3学科からオンライン授業における設備・実施教材・授業運用・問題点・学生状況が報告された。大枠の共有部分は変わらないが、学科独自の運用を共有したのは初めてであった。評価委員からも、こうした共有をしていくことで「知見」を増やすことがこれからの課題であり、【実践知】を残して欲しいと意見があった。また、新しい提案事項として下記の内容もいただいた。

<提案>ドキュメント配布資料について

ドキュメント配布資料において、ヘッダーではなく、フッターに配布番号・製作者名・いつのバージョンかなどを記載するトータルルールを決めて欲しい。今からでもゲーム分野の中でルール付けをしてはどうだろうか。これを遂行できると、実践知として残り、学生からも質問が的確にでき、教員と学生お互いのコミュニケーションがしやすくなる。

とのことであった。

以上の意見や新しい提案からたくさんの気づきを得られた。ゲーム分野・各学科の活動にプラスしていきながら、次年度の活動へ積極的に導入していけるように今後更に知見を重ねる。エンターティナーを育成する分野として、このような時代だからこそ明るく楽しく人材を育成していきたい。

以上

アニメーション分野 分野別分科会 議事録

学 科： アニメーション科、アニメーション研究科

出席者： ①学校関係者評価委員
(企業) 杉本 武史 株式会社 ぴえろ
総務人事リーダー

(合計1名)

②日本電子専門学校

坪井 翔 アニメーション科 / アニメーション研究科 学科長

(合計1名)

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 今年度の前期教育活動報告
*新型コロナウイルス感染拡大に伴う各学科の対応状況 等
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題1 今年度の前期教育活動報告について

・感染対策の状況報告及び、オンライン授業の実施報告についてご意見下さい。

<意見>

- ・新型コロナウイルスにおける感染対策およびオンライン授業などの各対応は適正だと思う。一般的な企業よりも費用を掛けて対応しているのではないだろうか。
- ・授業満足度が従来よりも低かった点は、感染対策の観点では致し方ない気もする。今後、学校として教育効果を上げるように工夫して頂くことで満足度は上がるのではないかと。

議題2 オンラインポートフォリオ講評会実施について

・8/17~9/4の2週間、ポートフォリオ講評会をオンライン形式で開催した。開催内容や在り方についてご意見下さい。

<意見>

- ・ペーパーレスは画期的だと思う。
- ・印刷準備等が簡略化出来たことで、就職活動が活発に行われることに期待する。
- ・学生数に加えて作品数も多く、限られた時間内で閲覧できると有難い…。

議題3 特別活動について

・11/25 特別活動「りょーちも氏による特別講座」を開催。講演の内容についてご意見下さい。

<意見>

- ・半分をオンラインにしたことはコロナ対策としては適正。オンラインの学生にとってもインタラクティブに質問が出来る形式は良いと思う。
- ・アニメ業界にとって **Blender** は珍しいものの、使い始めるアニメーターもぼちぼち出てきている。業界の動向を学ばせる良い機会だと思う。

その他 無し

ま と め： 今年度は新型コロナウイルス感染症対策により、オンライン授業の導入をはじめ運用が大きく変わったものの、本校アニメ系学科の教育に対して、例年通り概ねご賛同を頂けた。今後もオンラインによる授業や就職活動が続くことが予想されるため、委員から頂いた意見を学科で共有し、質の向上を図るための検討を進めていきたい。

以上

デザイン分野 分野別分科会 議事録

学 科： グラフィックデザイン科、Web デザイン科

出席者： ①学校関係者評価委員
(企業) 木下 幸弘 株式会社ジェイスリー
取締役副社長

(合計 1 名)

②日本電子専門学校
植田 誠一 グラフィックデザイン科 学科長
小山内 靖美 Web デザイン科 学科長

(合計 2 名)

次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 今年度の前期教育活動報告
*新型コロナウイルス感染拡大に伴う各学科の対応状況 等
3. 意見交換
4. その他

議 事： 報告 1 今年度の前期教育活動報告について (Web デザイン科)
・前期授業にあたる学科コンセプト「学生&教員の安全・安心」
・前期科目の「対面授業」「オンライン授業」「ハイブリッド授業」の割合
(8~9割をオンライン授業)
・前期授業のオンライン授業における学生アンケート結果の報告
(理解度、満足度、困ったこと、良かったこと等)
・オンライン授業使用ツール
・オンライン授業のガイドライン、工夫点
・2年生就職状況について：11月30日現在64%内定と職種の内訳

報告 2 今年度の前期教育活動報告について (グラフィックデザイン科)
・前期授業実習室環境について
・各学年のオンライン対応に関して (科内ルール、授業内容等)
・特別活動、オンライン展示会報告
・学生前期授業アンケート結果について
・前期終了時の学科内教員 (内勤、非常勤講師) からの意見に関して

議題 1 リモートによるオンライン授業で注意したほうが良いことは？

<意見>

- ・会社でも新人へのフォローはオンラインと対面のバランスを大切にしている。学校でも1年生などはオンライン授業内で質問がしづらいと思うので、授業とは別に放課後などに個別でフォローしたほうが良い。
- ・会社では、特定の職務を遂行できる人材を採用するジョブ型雇用なので、ジョブに合わせて専門スキルを持っていることが大切。学校では、自主的にものづくりに向き合い、課題発見・解決力を身に付けられるような学習内容にするべき。
- ・今まで以上にコミュニケーション力を養う必要がある。企業でもその部分の解決が悩ましい点。そのためにはコロナ対策や工夫 (少人数、入れ替え制など) をふまえた登校形態の工夫も必要。
- ・オンライン授業を実施するにあたって、しっかりと参考例 (サンプル) を学生に提示してあげることが必要。正しいビジュアルイメージを膨らませてあげる工夫は大事。

議題2 今後のデザイン業界について必要なスキルは？

<意見>

- Web 動画、電車内のモニター、デジタルサイネージなど、動画や映像コンテンツが必要とされる場面が増えているため「Web」「グラフィック」「動画」を組み合わせた授業内容も検討すべきである。
- 手で触る、今のグラフィックデザインと呼ばれているものは今後厳しくなっていくのではないかと。そのためには世の中の動きを知った上で情報発信力を身に付け、既存のグラフィックデザインの枠にとらわれずに変わっていく心構えが必要になってくる。

ま と め: コロナ禍における学校での教育活動を報告出来たことで、しっかりとした対応が出来ていると判断いただけたことは良かったと思っている。やはり業界におけるオンライン業務のコミュニケーション不足の弊害や、広告手法、求められている業務内容の変化など、コロナ禍以前との変化について聞くことが出来たのは、本校デザイン教育においてカリキュラム編成や授業形態などを考案するにあたっての参考になったと思う。

以上

CG映像分野 分野別分科会 議事録

学 科： コンピュータグラフィックス科、CG映像制作科、コンピュータグラフィックス研究科

出 席 者： ①学校関係者評価委員

(企業) 篠原 たかこ様 公益財団法人 画像情報教育振興協会 教育事業部 事業部長
新 和也 様 オートデスク株式会社
メディア&エンターテインメント セールスマネージャー

(合計2名)

②日本電子専門学校

永井 紀雄 CG映像制作科 学科長
金 統一 コンピュータグラフィックス研究科 学科長
岡野 正信 コンピュータグラフィックス科 学科長

(合計3名)

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 今年度の前期教育活動報告
*新型コロナウイルス感染拡大に伴う各学科の対応状況 等
3. 意見交換
4. その他

議 事： 議題1 今年度の前期教育活動報告について

<3学科からの報告>

- ・オンライン授業の状況報告
- ・2019年度就職状況報告(コロナ前)
- ・今年度就職状況報告(コロナ後)

議題2 CG企業のオンライン化の状況について

<意見>

- ・新型コロナの影響で、対面で行われてきたコミュニケーションが Zoom などのツールに置き換わったが、これまで行われてきたミーティングや会社訪問等にかかる無駄なコストが多かったことに気づいた。コロナ前とコロナ後で、さほど売上げが下がらなかったことでそのことに気づいた。
- ・オンラインでの業務はなくなる。企業は利便性を手放すことはない。
- ・求人は減っていないが、新人を取らない傾向にある。
- ・メディアエンターテインメントは産業として下降していない。

議題3 オンライン授業について

<意見>

- ・オンライン授業を導入することで、学生の時間の使い方が変わる。(学生の学習レベルによって、動画を2倍速で見ることができたり、学習が苦手な学生はゆっくり見ることができたりする、等)
- ・企業のオンライン化の状況も踏まえて、専門学校が勝ち組の学校になりたいならば、オンラインで学習すること前提の学校になるべき。

議題4 オートデスク新氏による「製品の売れ行きから読み取るコロナ後のCG業界について」

<意見>

- ・ゲームが伸びているが、モバイルは限界がきている。海外でも通用する案件が投資の対象になっている、国内の案件は伸びない傾向。アニメ案件も海外向けの内容が伸びている。
- ・個人ユーザーでの購入も伸びている。VR・ARも増加。

- ・CG 業界は、ファッションと融合したり、VR・AR 等これまでにあまり伸びていなかった分野が伸びてきたりしている。学生は、3DCG ができることで、ゲームやアニメだけでなく、さまざまな方向に向けたキャリアを形成していくことができる。学校は、そのきっかけを作ることができる。

まとめ：

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、学校の在り方や、企業の働き方に大きな変更が生じている。今回の分科会は、それらの変更について情報を共有する場となった。オンライン化が進むことで、企業の働き方に変化が生まれ、専門学校もそれにあわせて教育内容を変えていかななくてはならない。また、新しく伸びている CG 関連分野に学生の目を向けさせることも、必要と思われる。今回の内容を、今後の学科の運用に役立てたい。

以上

モバイル・AI分野 分野別分科会 議事録

- 学 科： ケータイ・アプリケーション科、AIシステム科
- 出席者： ①学校関係者評価委員
(企業) 伊藤 好宏 日本サード・パーティ株式会社
グローバルビジネスオペレーション統括本部 技官 (合計1名)
- ②日本電子専門学校
大川 晃一 エンジニア教育部 部長 兼 ケータイ・アプリケーション科 学科長
福田 竜郎 AIシステム科 学科長 (合計2名)
- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 今年度の前期教育活動報告
*新型コロナウイルス感染拡大に伴う各学科の対応状況 等
3. 意見交換
4. その他
- 議 事： 議題1 今年度の前期教育活動報告について
<意見>
・両学科共にコンテストに参加しているのは学生にとって良いと思う。
・外部コンテストや卒業制作、授業などでのグループワークでは、役割分担もしっかりと管理できると良いと思う。
・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う学校・学科の対応は問題ないと思う。
- 議題2 オンライン授業について
<意見>
・オンラインによる教育は、対面による教育と比べ、1回で大人数に対して実施できることとオンラインの方が質問しやすいという人もいるメリットがあり、一人ひとりの理解度を確認するのが難しいというデメリットもある。
・企業と学校ではオンラインでの教育・コミュニケーションに相違はあると思うが、アウトプットをこまめに確認するしかない。
・オンライン授業でも対面授業でも授業を教員が楽しみ、情熱を持っていることが大切。
- ま と め： モバイル・AI分野の分科会では、外部コンテストへの取り組み、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う学校・学科の対応については問題ないとの評価を頂いた。オンライン授業については学生の学習状況が二極化しやすいので、オンライン授業のメリットを活かしつつ、細かな学習状況のチェック及びフォローの方法を検討したい。

以上